Rotary International District 2800

# 山形西ロータリークラブ会報

会長：長澤　裕二　　幹事：三沢　大介

地区目標　ロータリーを語ろう　そして　ロータリーを楽しもう

クラブテーマ　新会員を育てながら、ロータリーを楽しもう

世界に希望を生み出そう

◆点鐘：五十嵐　信 副会長　　◆ロータリーソング：蔵王を仰ぐ
◆司会：斎藤　豪 S.A.A.　　◆会場：山形グランドホテル

第2996回例会　　令和5年11月6日(月)

## 会長あいさつ　長澤　裕二 会長

蔵王に行ってきまして、アオモリトドマツを10本ほど植えてきました。社会奉仕委員会の高嶋委員長、武田元裕副委員長、三沢幹事、私、委員会の方に3人ほどお手伝いをお願いして、全部で9名で行ってまいりました。

最初、ユートピアでゲレンデの一部からアオモリトドマツの20センチくらい育ったような稚樹を10本ほど取りまして、土を付けて、20センチ四方くらい土を付けて取ってきまして、それを地蔵の最終駅の右側は大体アオモリトドマツが全部枯れて、立っています。1本1本。そこにまず10本植えてきました。取るのは30分もあれば取れます。ほかにもたくさんあるんですが、スキー場で日が当たるので、落ちた実が結構育って自生しています。それが結構あるので、毎年10本くらい取っても平気だなというくらいたくさんありました。それで、行った先にクマザサがすごく茂っている所に、アオモリトドマツが枯れてボンと立っているんですが、その周りほとんど1m50cm、私の背丈くらいのクマザサがいっぱい茂っています。そこをとにかく刈り払って、1メートル四方くらい刈り払ってそこに植えるんですが、ほとんどクマザサの根が、地下茎がダーッと詰まっていて、掘ってようやく植えることができます。それでそこに植えて、すると土が取れた土がないんです。その地下茎に張り付いている竹の根っこのところをほぐして土をかけるというような感じで、そんな感じで10本ほど植えてきました。約1時間くらいかかりまして、急ぐ人は午後からも仕事あるということでお昼で帰ったので、我々はせいぜい1時に帰ったのですが、1時間ちょっとの時間で植えることができました。それで、もう1班のほうはもっと上のほうで種まきをする苗床を作るということで、それで笹刈りをしました。だけど笹刈りだけではとても終わりじゃなくて、来年、今度はその竹の根っこの部分をとにかく耕して、種をまくのを作らなくてはならないということになっています。それをやって、来年5月か6月にみんな全員で今度は上に行って行動しようかということにしていますので、ぜひよろしくお願いします。

## 幹事報告　三沢　大介 幹事

●本日新入会員の関口さんに来ていただいております。よろしくお願いします。
●来週は地区大会です。西ロータリークラブからは51名の登録をいただきました。開会は10時です。
●例会終了後、本日は移動例会になりますが、13時30分から理事会を2階のアルプスで開催しますのでよろしく願いします。
●今月のロータリーレートは149円です。
○会長より
10月5日、来年の副会長が冨田浩志さん、会長エレクトの選任もその場で行い、五十嵐信さんに決まりました。

## 委員会報告

### 親睦・家族委員会

会員９名、奥様が７名、11月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

## 新入会員の挨拶

### 関口　史人 さん

［清水建設株式会社　山形営業所　所長］

昨年の4月にこちらに赴任しました。その時の所長の引き継ぎ事項で、ロータリークラブへの加入というのがありました。レギュレーションが各地区のロータリークラブだったのですが、お仕事の関係でライオンズに入っていまして、退会させていただいて、私がこちらに来て1年半と少しかかって、ようやく歴史と伝統のある西ロータリークラブに加入させていただくことができました。これからもよろしくお願いいたします。

奉仕の心で地域貢献していきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## ゲスト卓話

### DXセンターについて

関　　良樹 さん

［東北芸術工科大学　デザイン工学部企画構想学科　教授］

皆さん、こんにちは。今日はＤＸセンターの話もあるんですけれども、今日はここにちょっと題材です。この話をしている人というのは、日本ではたぶん僕だけじゃないかなと思っているのですが、皆さん、人手不足ですよね、という話。経営者の方、皆さんおっしゃいます。このままいっちゃうとどうなるのか、皆さんあんまり先のことは考えたくないというような方もいらっしゃる。しかしながら、その中でちょっと変化があるなということを今日はお話していかなきゃいけない。そして最後にＤＸに展開することの意味みたいなことをお話したいと思っています。

今日のアジェンダというとスマートシティ化。効率的な業務運用ということを考えるに当たって、これはせざるを得ない。日本すべてが展開していかなきゃいけないということです。その上で、若者がいないということが一番の問題だということを皆さんも認識があると思います。そのインサイトということ、ここの研究がおそらく全国の大学の中で僕だけかなと思っています。また、若者を迎え入れるということを考えていかなきゃいけない。このまま行ってどうするんですか。じいさんばあさんのところの中で経営やっていくんですか。無理ですよね。じゃあどうするのか。迎え入れましょう。ということのお話をして、新たな山形の経済を構築するんだということにつなげていきたいというふうに思っています。

皆さんご存じのとおり、スマートシティ化に向けて、なぜスマートシティ化しなきゃいけないの？これはもう皆さん十分理解をされていらっしゃることだという認識をしています。2020年から2030年に向けて若干減っています。いわゆる若い人たち、少子高齢化ということの典型のものですね。このグラフから読み取れるのは、この10年ということについては、山形県から10万人が減っている。山形県、現在は103万人くらいですよね。山形市で25万人。これが10年後というのは、100万人を切るんじゃないか。2040年の段階での人口分布と同じぐらいになるというふうに言われています。ただ、平均年齢が違いますよね。2040年代における山形県の平均年齢というのは24歳ぐらい。じゃあどういうことなんだということを考えてみます。皆さんの職場の社員。１割減る。それと同時にマーケットも１割減るということなんです。だから成長じゃないんですよね。ということを、皆さん非常に先行き不安ということを思っていらっしゃると思います。

これは内閣府がやっている負のスパイラルの図なんですけれども、国内の市場が縮小します、労働力が人口減少します、当然経済成長も低下する、豊かな生活ということはできなくなるということ。これが負のスパイラルということを言われているわけですよね。こういったゆえに、メコムさんのところでＤＸセンターをお作りになられたかと思いますが、いわゆるＤＸにフォーカスするということが非常に必要になってきたということの時代性が表れているわけですね。

それで、若者の定着、今日はこっちの話をしたいなと思うのですが、若者の定着回帰というのは大学卒業者の動向に影響されるということが見えてきています。いわゆる政府による地方創生ということについては、人口の減少に歯止めをかける、東京圏内の人口の過度の集中ということを是正しなければいけないということがまずあるわけです。これは、東京圏への人口集中というのは進学や就職をきっかけに地方から東京への若年層を中心とした大量の人口移動によって生じたものとされているということですよね。おぼろげに皆さんも認識あるかと思います。山形県においては高校を卒業する18～19歳、大学を卒業して就職する20歳代、22歳ということが基本になるかと思いますが、若者の転出超過率というのは、この全体の７割から８割程度を占めて推移しているんですね。山形県の人口の社会減少が続く傾向というのは、これら若者が県外流出という大きな要因となっているということの表れだということなんですね。これは私もゼミをも持っていますが、今年の4年生、来年の３月には卒業します。私のゼミは８人ほどおりますが、８人のうち山形に残るのは実は１名だけです。７人が東京に出ます。じゃあなぜ東京に出たいのかということを、もう少し根本的な本質要因は何なのかということを調べる必要があるなということで、ここからですね。

なぜ流出するのかということで、３つほどお話をしたいなと思っています。１つ目は想像から変わってきている傾向が表れているということ。単純に行ってるということではないということ、時代性に伴って彼らも悩んでいるということ。その話が１つ目です。２つ目は変わるために我々ができることってなんだろうということですね。山形県の皆さん、経営者の方がやるべきことはなんなのかということ。そして3つ目、我々がその上で実行すべきことということ。この３つに分けてお話をしたいと思います。

「大学生の本音と将来動向の変化」ということでページを作りました。私、十日町に住んでいるものですから、１人でちょっと飲みに行ったりするんですね。学校でね。そうすると学生が当然います。それで学生が何を話しているのかということに非常に興味を持っています。大学生ですから、もちろん非常に営業成績を上げなきゃとかそういうようなセンシティブな話ということではありません。基本、楽しい話が多い。しかし今、３年生、４年生はそんな状況じゃないんです。大学生はダラダラしているだけだと思いますよね？実は結構大変になっているという状況です。３年生、４年生というのは就活話が多いですね。僕らの大学はもちろんですけれども、お隣の山形大学の生徒さん、よく七日町だとかでお食事されたりしているのを小耳にいろいろはさんで聞いていますと、「どうする？　あいつはどうだった？」「うん、でもあそこって、私の専門性に合うのかしら？」、そんなようなことを悩んでお話しているんですね。なぜなのか。その中において、大学生におけるお仕事においての重視点ということをまとめました。

これは2020年におこなった、山形大学と東北公益文科大学の調査データに基づいた指標になっています。仕事の内容、質ということのプライオリティをしっかり彼らは持っているということになるんですね。自分のやりたい仕事ができる、福利厚生が充実して働きがいがある、自分の能力、専門を生かせる。もちろん大学で専門性を学んでいる学生というものについては、もちろんそれを発揮、どのように社会に役立てるのかということが大変重要なことであるかと思います。これを参考にしながら、今の大学生の環境についてお話したいと思います。

なんとなくわかると思いますが、早期化する就職ということですね。なんと今は、これはもう３年生ですね。私のゼミの３年生、これも同様に８人いるんですけれども、そのうちの２人、多分来月決まります。３年生で内定が出ます。という時代に入っているんですね。

それで、こういう時代がどんどん、23年、24年、こういった中でアンケートを回収するということだけど、どんどん前倒しになってきているということなんですね。現在の３年生ということについては、もっと早期化します。人材確保に積極的な企業のインターン、なんと2年生から始まります。となると、20歳前の大学生が「先生すみません、今日はゼミ休みます」「授業休みます」。2年生ですよ。休んでインターンに行っちゃうんですよ。インターンは夏と冬だけではないんです。今の段階でもインターンというのはおこなわれているということが関東地方の首都圏には多いんですね。

じゃあ山形はどうなんだ。山形、インターン情報って非常に見つけにくいんです。一部のところはホームページの中にぶら下がって、情報だとかを開示されていらっしゃる企業さんがたくさん、多いのが現実です。しかし、対4年生に対して皆さん情報を開示していませんか？　遅いですよね。それは残った人だけのパイの食い合いになるわけですよ。という状況が起こっているということを皆さん意識する必要があるというのが現状です。今申し上げたように、残る人はどういう人かということですね。何社も受けて落ちて、それで残った人を、そのパイをまたさらに分け合うということになっちゃう。だとすればもっと前からやる必要が、そういう時代に入ってきたということを認識する必要があるかと思います。

首都圏の企業にじゃあなんで行くんだよ、と言いました。私のゼミの８人のうち、７人が首都圏に就職すると言っています。首都圏では企業の選択肢の幅があって学びがある。選択肢が多いのは、これは事実ですよね。それから、東京で働いてみたい。空気感を感じたい。これもよくわかります。都会に行ってどういうふうに自分が変化するのかと自分自身を改めて再認識したいという方もいらっしゃるでしょう。給与がローカルと比較して高い。これも事実ですよね。これは後ほど話をします。キャリアプランが立てやすい。選択肢の幅があれば当然キャリアプランも立てやすいわけですよね。これも理解しやすい。今の学生は結構福利厚生、ちょっと話は逸れますが、ＳＤＧｓみたいなことをしっかりやっている会社というのもそこの対象の中に入ってきているというのが昨今の若い人の傾向です。

首都圏で働くことは多くのサラリーが必要となって、よって年収課題が筆頭にという話を書きました。この中で、転職。今、新卒の大学生、平均でどれぐらいで辞める、清水建設さん「10年間で、恥ずかしい話、３割辞めている」ですよね。今、３年１カ月というのが現状アベレージになり始めているということです。この年収が少ないとかそういう話だけじゃないんですよね。いろいろデプスインタビューだとかっても多くやりました。そうすると、我々はまったく理解できない、異なる環境が新たに生み出されているということにフォーカスする必要があるかなと思っています。それはどういうことか。首都圏で、新卒で、仮に約300万円の年収を取るとします。ボーナスは別です。そうすると手取りが22万円ぐらい、20万円ぐらいですよね。今、首都圏はインフレ状況にあって、賃貸料も高いです。皆さん郊外に今お住まいになられています。私の卒業生なんかも東京から千葉県の船橋ですとか、埼玉の久喜ですとか、神奈川、相模原から通っていて、23区には住めないですね。先ほど申し上げたとおり、東京にどんどん集中しちゃってるという状況もあって、インフレ状況にあると。それが大体、賃貸約10万円としましょう。それに光熱費、食費、インターネット、携帯、最低限必要ですよね。そして交際費。お洋服買いたいという方も当然いらっしゃいます。外食もしたい。中目黒で素敵なバーでお友達と飲みたい。デートしたい。普通、思います。それで奨学金の返済なんですよ。今、学生の約半分が奨学金をお使いになられていらっしゃいます。約半分ですよ。昨今の大学生というのは奨学金を使って大学に行ってるという方が大変多いんですね。これ、家庭の事情だけじゃありません。自分自身のことも考えてということなんです。ただ、これ、就職した途端、奨学金返済が始まるんですよ。一番安い方で1万4千円くらいから。高い方は4万5千円、５万円なんです。これ、先ほどの22万円ということだと、そこからマイナスしていってください。恐ろしい数字になってきます。「ボーイチ」が増えるんです。ボーナス一括払いということですね。あとは、消費者金融に借りる子もいるでしょう。

というように、実は都会の暮らしというのは、首都圏で働くということは、生きるために働くことで、楽しむことになっていないんですよね。という状況があります。だから逆に言うと、うちの大学の中でそういう現実ということだとかということを話をしているというのが実態です。それでも一度は行きたい。でも１回考えて、いずれはどうするかということを考えたい。そこで新しいマーケットが見え始めているというのがこのあたりなんですね。

あと離職の話、今年、来年すごく増えます。Ｕターン希望者が若干ずつ上がってきているんですよ。これおもしろいなということで、フォーカスすべきだなと思っています。やはり先ほどから申し上げている首都圏で働くということの空気感を３年間１カ月、楽しむなり苦しむなりしながらも、やはり地元に戻るということの空気感が一番やっぱり属する上で正しいのか、楽しいのか、無難なのか、そういう認識というものが改めてこの中でマーケットとして存在し始めているということですね。

若手との共生ということは皆さん最も重要な、皆さんのお立場の中で重要なことかと思っています。それはどんどん人手不足になっていって、先ほど言ったように10年

後というのは１割社員が減っていって、どんどん高齢化していくということの中に若手の労働者というのが存在しない。ただ、戻ってくるパイが出てくるから、それを入れたとした時に、共生をしながらより効率的な業務運営ということをしていかなければならないということが皆さんの役割ですね。その中において、大学を卒業して首都圏に行って、３年間の徹底的な効率化経営ということを果たされている学生が、いわゆるＺ世代という言い方をしますけれども、無駄なことをしたくない傾向というのが非常に強い子たちなんです。明らかに間違ったことってやる必要がないでしょ。だからこれは効率的なことで、正しいことかもしれません。それで、首都圏で働いたのち、先ほど申し上げたようにマーケットとして戻ってくるＵターンの選択肢は、効率経営ができている企業かということが主点というのが出てくるというのがあります。

なんとうちの学科で昨年、今年の３月に卒業し、４月のタイミングで社会人になりました、東京に行きました、全体で言うと55人程度なんですけど、そのうちの６人がもう離職してるんですよ。もう離職。びっくりですよね。離職の理由は2つあります。やっぱり合わなかったから。あまりにも働き方改革でゆっくりしちゃって、ガツガツ仕事できないという人もいます。もう１つは、やはりちょっと弱いかな、というようなこと。ちょっと耐えられなくなったという方もいらっしゃるのも事実です。こういった方々を、皆さんはＵターンしてきて、それを皆さん一緒に経営活動をしていくという共生能力ということに対して、彼らはＺ世代、いわゆるデジタルネイティブであるということなんですね。デジタルネイティブと皆さんお付き合いするということが必要になるわけです。でも一方でデジタルネイティブの彼らと付き合うということは、効率性を担保されているということにおいては、経営においての展開・運用に関して、いろんな部分で役に立つところもあるかもしれない。だからそういった機運ということだとかＤＸ化ということですごく重要なんですね。

ちなみにこれは、将来の山形、2050年ということで、僕が生成ＡＩで画像を作りました。「自然と共生する2050年の山形」って、こんなの出てきました。こんなふうにかっこよくなりたいですね。

山形の未来はスマートシティ化ということで、これはならざるを得ません。どういう形になるか、これは皆さんがやっぱりハンドリングしていくということの必要性があります。労働力不足をまずは補わなければいけないという側面があります。これもＤＸ化で、とにかく効率運営ということを果たすということ、これが必要です。若者が戻ってくることというのが健全経営にとって最も正しい構成率なわけですよね。会社内の年齢分布における構成率ということを、30年前を考えてください。山形の30年前、構成比率が20代、30代、40代、50代、これがほぼ均等化になっているということが言われていたわけです。それが今の分布というか、どこがサブになるのか、これはもう１回皆さんの会社の中で見極めてください。そこの部分の中において皆さんがやること、若者と共生できるということのマネジメントをすること、ということが必要になりますね。それは結果的にデジタル化が図れていない企業には興味・関心が彼らにはないということなんです。迎え入れる環境の投資ということを図る必要があるという時代に入ってきたということになりますね。

最後に申し上げたいことで、本日の話はこれで終了したいと思いますが、経営者そのものというものが「デジタル系、難しいですよね」「デジタルデジタルってうるせーな、こいつ」とか思う人がほとんどだと思います。ただ、大事なのはデジタルマインドなんだと思います。自分ができなくてもいいんですよね。デジタルマインドで物事を考えるということのマインド、そのマインドに皆さん、当然シフトされている方もいっぱいいらっしゃると思いますが、そこがこれからの経営に伴う上でのシフトする大変非常に重要な要項になるかなということを思います。今日の私の話はこれで終了したいと思います。何かありましたらまたぜひお話させてください。どうもありがとうございました。

## 次年度幹事・会計・理事発表

遠藤　靖彦　会長エレクト

総会のおおむね1か月前に、次年度のエレクトと次年度副会長、そして理事と幹事と会計幹事の報告をして、総会にてその承認をいただくということになっております。

私のほうから次年度の理事について、ご提案をさせていただきたいと思います。会長エレクトは五十嵐信さん、副会長が冨田浩志さんということで、長澤会長のほうからありました。

理事としましては、武田元裕さん、遠藤正明さん、原田久雄さん、海和浩運さんの４名を候補者として挙げさせていただきました。

また、幹事につきましては武田良和さん、会計幹事については小野木健治さん。以上のご提案とさせていただきます。来月の12月４日が総会日となりますので、そちらでのご承認をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## ニコニコ BOX

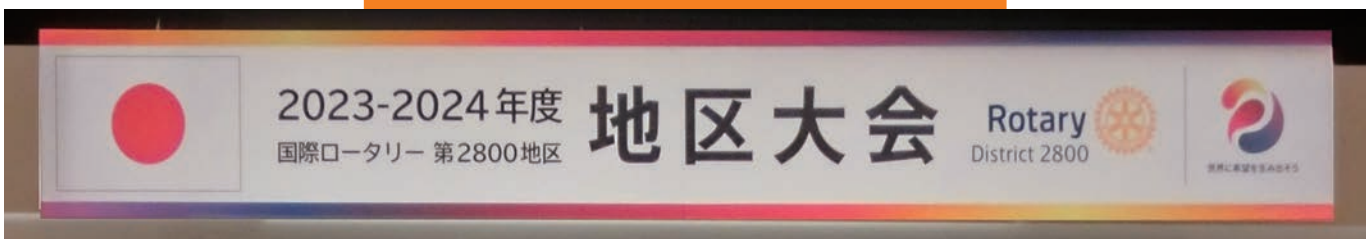
〈11月6日〉

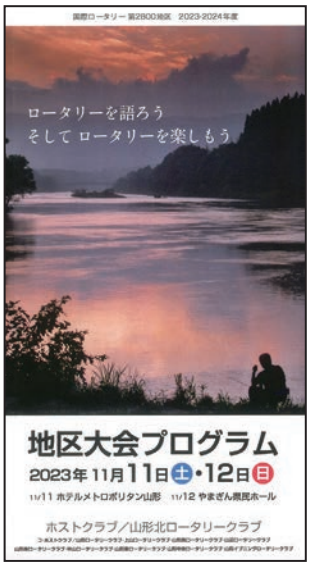
**安部弘行さん／ＤＸセンターへようこそ**

本日の職場訪問例会、皆さまのお越しをお待ちしておりますし上げます。

| 本日出席（11／6） | 会員総数 | 出席会員数 |
|---|---|---|
| | 102名 | 61名 |

# 令和５年　11月12日(日)



## 会員懇親の夕べ